

＜ 高等学校「歴史探求」に活かすグローバル歴史と対馬の繋がり ＞

研究年度	令和3年度
研究期間	令和3年度～令和5年度
研究代表者名	松尾晋一
共同研究者名	山田健太郎 原洋輔（長崎県立対馬高校）

はじめに

本研究の目的は、世界史レベルの対馬の歴史を掘り起こし、それを歴史教育の現場で実践する教育教材開発を行うことである。高校新学習指導要領によって「日本史」「世界史」は「日本史探求」「世界史探求」へと変わり、生徒が「考える」ことが学びの大きな柱となった。ただ、学ぶ生徒にとって歴史は、身近なものではなく、一方的に「考えろ」と言われても取っつきにくいと感じる割合が高いと思われる。この点は、身近な地域の歴史との結びつきがあれば少し解消できる課題であることから、その効果を検証する。

初年度の今年度は、文化8（1811）年に対馬で行われた易地聘礼をメインテーマにして、対馬高校日本史選択の生徒を対象に対面授業とFWと遠隔授業を行い、学習の動機付け及び地域への関心に焦点を当てて研究活動した。

1. 対面授業とFW

長崎県立対馬高校で対面授業を行うにあたって、使用している日本史Bの教科書で対馬が取り上げられている事項の検証をまず行い、つぎにある程度のスパンで生徒に考えてもらえ、かつ日朝関係でありながら地元厳原を舞台とした歴史事項の抽出（易地聘礼）とFWのルート検証を行った。

参加する生徒の理解をより深めるためにFWに本学学生を参加させ、学生1名当たり生徒6名程度のサポートにあたってもらった。講義内容とFWとを結び付けて考えることを補う効果を期待した取り組みである。なお、グループでの理解の差がなるべくつかないように、事前に訪問先の説明用紙の作成を行い、学生にはそれに従った解説を担当する生徒にしてもらう方法をとった。

2. 遠隔授業

対面授業とFWから一ヶ月後に遠隔授業を実施した。この間、教科書を使用した課題を生徒に課して予習に取り組んでもらった。これは記憶をたどって教科書の内容を振り返り、単に単発的なイベントではなく、今回の授業が通常の学習の延長上にあることを生徒に意識してもらうことを意図した。Zoomを使用したが生徒がタブレットを持っているとのことだったので持参してもらい授業をすすめた。講義内容としては、対面授業とFWで行ったことの補足説明と易地聘礼の背景に関する解説、そして歴史学の限界について説明をした。

3. 教育実践ほか活動の概要

6月1日以降 メールで対馬高校と実施に向けたやり取りを実施

7月26日 11:00～12:00 第1回 打ち合わせ 山田先生研究室（配分金と予定確認）。

12月14日 対馬高校との事前打ち合わせ

16:00～16:30 対馬高校原・有田（日本史）、長崎県立大学松尾、中村秀汰、西垣的倭、築城里菜、山口愛純、櫻井勇介（以上、公共政策学科学生）

12月15日 授業（対馬高校） FW（厳原地区の巡見）

9:50～10:40、10:50～11:40、11:50～12:40の3コマ。

対馬高校生徒49名。対馬高校田川校長ほか。

巡見サポート：中村秀汰、西垣的倭、築城里菜、山口義弘、鈴木耀徹、山口愛純、櫻井勇介（以上、公共政策学科学生）*学生には参加の意義についてレポートの提出を課した。

1月24日 遠隔授業（Zoom利用）

9:55～10:45

参加者 対馬高校生徒40名。中村秀汰（公共政策学科学生）

2月4日 14:00～15:30 検証と課題 シーボルト校会議室（山田健太郎）

4. 実施事項の分析

対面授業とFW

- ・教科書の世界が講義とFWで、より身近な歴史と肌で感じた、との感想を多くの生徒が書いた点は、ひとつの成果と捉えることができる。
- ・参加学生数の担当生徒数が6名程度であったことから、両者間でのコミュニケーションがスムーズにできた。なお、今回の取り組みの情報共有のためにGoogleclassroomを用いて行った。これにより学生間の情報交換もスムーズにできた。
- ・教科書に掲載されている人物の墓が身近にあることを知らない生徒が大半であった。これは教科書の世界と現実世界とを教員も生徒も結びつけていないことを意味しており、これをどう改善していけるのか検討の必要がある。

遠隔授業

- ・対面授業・FWと遠隔授業との間隔をどの程度にすれば教育的効果があるのか、この点は今後も検証していく必要がある。
- ・生徒のタブレット使用に関してハウリングが起きたので、この点に注意しつつ機器を使うことでの教育効果を最大限だせる仕組みの検討が必要である。

おわりにかえてー来年度へ向けての課題

今年度は易地聘礼を素材とした講義を行ったが、これはあくまで日朝間と対馬の歴史でしかない。世界史レベルで語れる対馬の歴史の掘り起こしを行う必要があり、候補としてポサドニック号事件、日本海海戦、朝鮮戦争などがあるので、これらの関連史跡の確認作業から進めていくことが大事だと考える。また、マンガやアニメで対馬が取り上げられており、これらは世界的に人気を博している。こうした状況の歴史教育への活用についても今後分析の対象としていきたい。